神戸新聞 2020年06月01日 月曜日 面名 朝三 １３ 3ページ

「筆談バッジ」を制作した聴覚障害者のイラストレーター

人

加藤（かとう） 慎也（しんや）さん

新型コロナウイルスの感染拡大で、マスクを着ける人が増える中、聴覚障害がある人との会話を円滑にしようと「筆談バッジ」を制作した。配慮を求めるだけでなく、筆談に応じることも伝えられるようにした。

聴覚障害者の多くは相手の口元や表情を読んで会話するという。普段なら「マスクを外して」と頼めるが、今は感染予防のため、ためらう人が少なくない。店員の口元が見えず、買い物の時に意思疎通がしにくいといった声もある。「会話の助けになり、笑顔になるものを」と思い付いた。

バッジは、住んでいる奈良にちなんだシカがメモと鉛筆を持った絵柄。「筆談お願いします」「筆談対応します」の2種類がある。缶バッジ型が350円、キーホルダー型が500円で、聴覚障害者団体や接客業の店から注文が入っている。

2歳で右耳の聴力を失った。介護施設職員だった21歳の時に突発性難聴で左耳も徐々に聞こえなくなった。天職だと思った介護職は断念した。

その後、得意なことを仕事にしようと、独学でイラストを学び、イラストレーターの道へ。無料通信アプリLINE（ライン）のスタンプ作成などを手掛ける。今は補聴器を使い、相手の口元を見ながら会話する。

「聴覚障害者全員が手話ができるわけではない。その人に合った形で意思疎通できれば」と語る。「聞こえる人と聞こえない人どちらの生活も自分には分かる。イラストをきっかけに、お互いを思いやる社会にしたい」。奈良県桜井市出身。35歳。

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

ＮＩＥワークシート／小学中学年～中学生／国語、総合、朝ＮＩＥ

名前 【　　】

① 新型コロナウイルスの感染拡大（かんせんかくだい）で、マスクをつける人が増える中で、加藤慎也さんは何を制作しましたか？

② 聴覚障害者（ちょうかくしょうがいしゃ）の多くの人たちは、どのようにして会話をすると書かれていますか？

（　　）

③ 2種類のバッジにはそれぞれ何と書かれていますか？

④ 「筆談（ひつだん）」とは何でしょう？ 辞書で調べてみましょう。

（　　）